

2018年度 事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



森もりレンジャー（定山溪自然の村）



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目次

I. 2018 年度 総括	1
II. 経営理念	2
III. 事業報告	
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 事業実施報告概要（事業区分別）	3
4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) こども事業課・こども育成課（指定管理事業：児童会館 107 館） （受託事業：ミニ児童会館 96 館、放課後子ども館：1 館）	14
(2) こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	16
(3) 若者支援事業課（指定管理事業：若者支援施設 5 館）	18
(4) 企画事業課（地域活動等事業：野外活動系事業） （自主事業：滝野自然学園）	20
(5) 野外活動課（指定管理事業：北方自然教育園）	21
(6) 野外活動課（指定管理事業：定山溪自然の村）	22
(7) 野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	24
(8) 市民参画課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設）	26
(9) 企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	28
(10) その他地域活動等事業 （こども育成事業、財団連携事業）	29
6. 重要な契約に関する事項	30
7. こども基金（スマイルキッズ）協力者・助成対象一覧	
IV. 事務報告	31
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 事務所の状況	
5. 役員等に関する事項	
(1) 理事 (2) 監事 (3) 評議員	
6. 職員に関する事項（事務局組織図）	33
(1) 主要な職員 (2) 職員数	
7. 会計に関する事項	34

I. 2018 年度 総括

2018 年度は、事業の多数を占める指定管理事業第 4 期目の初年度であったが、公益財団法人として適切かつ継続的な事業を展開するため、事業単位ごとの収支状況を適時把握しながら、効率的かつ効果的な運営を行うとともに、これまで行ってきた各種事業の更なる充実や社会課題の解決を図ることを目的として、他部門、他団体との連携や協働を積極的に進めた年度であった。

特に、こども若者部門がより連携を図りながら、こどもを取り巻く環境変化に対応した様々な課題の解決に繋げるための新たな取り組みを始めたほか、併設する中島児童会館とこども人形劇場こぐま座内に、両施設の歴史的背景や存在意義を広く市民に伝え、こどもから大人まで楽しみながら歴史に触れることができる、児童文化に関する資料室を開設することができた。

また、胆振東部地震に端を発した道内全域における停電により、当財団の管理運営施設においても閉館を余儀なくされたが、地震翌日以降、それぞれの施設の復旧状況を見ながら早期の施設運営の再開に努め、災害用備品等の購入など不測の事態に対する備えを進めるなど、施設管理体制や危機管理マニュアルの見直しにも取り組んだ。

このほか、働き方改革関連法施行に伴い、当財団においても適切な人事労務管理を行うための新たなシステムを導入するなど、対応を進めている。引き続き、安定した人材の確保と人材育成の取り組みに加えて、適切な職場環境の整備についても着実に取り組んでいかなければならない。

組織横断的な事業運営は当財団の強みであり、発展可能性のある事業領域を広げるものであることから、引き続き他部門・他団体との業務連携等を推進するとともに、各事業における未来ビジョンを職員一人一人がしっかりと意識し、その将来像に向かって確実に進んでいくことが必要不可欠である。

よりよい地域社会の実現に向けたさらなる取り組みを、職員一丸となって積極的に進めていく。



Ⅱ. 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

Ⅲ. 事業報告

1. 事業実施状況

平成 30 年度 事業基本方針	
1	時代のニーズに対応した事業内容の再構築
2	中長期的視点による人材の育成
3	生産性の向上に繋がる戦略的投資
4	他部門・他団体との業務連携等の推進
5	経営基盤の強化

2. 施設管理運営

(1) 自主事業 2 施設

- ・ 滝野自然学園
- ・ 岩見沢地域若者サポートステーション

(2) 指定管理事業 118 施設

- ・ 若者支援施設 5 施設
- ・ 児童会館 107 施設
- ・ 青少年山の家 1 施設
- ・ 定山溪自然の村 1 施設
- ・ 北方自然教育園 1 施設
- ・ 札幌エルプラザ公共 4 施設 1 施設
- ・ こども劇場 2 施設

(3) 受託事業 97 施設

- ・ ミニ児童会館 (96 施設)
- ・ 放課後子ども館 (1 施設)



3. 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】 (1)青少年の健全育成と社会参加に関する事業 (2)社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

(1)青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

(2)体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

(3)施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

(1)体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等

(2)受託事業

- ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

(3)調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

(4)施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

(1)滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業
- ・団体支援事業 ・施設管理運営事業

(2)北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

(3)定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業

(4)青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業 ・団体支援事業



【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| (1)活動支援事業 | ・男女共同参画啓発事業 | ・市民活動関連事業 |
| | ・NPO活動支援事業 | ・相談・支援事業 |
| (2)職員派遣事業 | ・大学、専門学校他への職員派遣 | |
| (3)情報発信事業 | ・各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・物品貸与等事業



他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、公益目的外での施設貸与事業

- ・札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業



4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

こども事業課・こども育成課

児童会館・ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>☆札幌まなびのサポート事業「遊學舎まなべ」</p> <p>学習習慣を身につけるとともに、継続した学習支援をとおして基礎学力の向上を目指し、高校進学へつなげる。また、進学後においても生徒の状況を確認し、若者支援事業課とも連携を取りながら個々のケースに合わせた対応を進める。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>☆こども事業課</p> <p>①時代のニーズに対応した事業内容の再構築（中高校生年齢利用者の課題解決事業）</p> <p>②他部門・他団体との業務連携の推進</p> <p>③業務効率の向上と効率的な予算執行</p> <p>☆こども育成課</p> <p>①すべての子どもたちの健やかな成長のため、社会的な課題解決に向けた関連施設との連携協力体制の強化</p> <p>②他課との連携を強化した多彩な体験活動、継続した支援へ繋げる活動の推進</p> <p>③職員自ら考え行動する習慣の習得および機能的な組織体制の構築</p> <p>④多様性を認めあい、子どもが自分らしく過ごせる居場所づくり</p>	<p>①児童会館を利用している課題を抱える中高校生が専門支援機関につながった、もしくは課題の解決につながった件数 20件／年</p> <p>②協会内施設との連携事業 10事業／年</p> <p>③協会から働きかけた他団体との連携事業 5事業／年</p> <p>①地域連携事業 5回以上／年（1,015回）</p> <p>②クラブ・サークル成果発表 2回／年（406回）</p> <p>③子どもたちによる読み聞かせ 2回以上／月（4,872回）</p> <p>④子ども運営委員会企画事業 2回以上／年（406回）</p> <p>⑤自然体験活動 4回以上／年（812回）</p> <p>⑥利用者アンケート 総合満足度 70%以上</p> <p>⑦利用者アンケート 接遇満足度 80%以上 等</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>①児童会館を利用する中高校生年齢の子どもと関わり、不登校や進路相談、家庭環境など様々な課題解決に向けて若者支援施設と連携し、本人・家庭へのアプローチを含めた計画的な支援に繋がった。</p> <p>②課題を整理し、他課連携を図り事業を企画。小学生、中学生それぞれの対象者が抱える課題にアプローチすべく、主に児童会館を場として講座・ワークショップ形式での事業を展開した。</p> <p>③「国際交流」、「子どもの貧困」、「SDGs」等の社会的課題の解決に向けた市民啓発も含めた各種事業を展開することができた。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①連携が盛んな地域では目標回数を大きく上回り、深い関わりを構築することができた。</p> <p>②発表の機会に向けて異年齢の子どもたちが団結し、達成感を得ながら取り組むことができた。</p> <p>③子ども運営委員会による読み聞かせの他、読み聞かせクラブを立ち上げるなど活動内容の幅を広げることができた。</p> <p>④地域のフィールドや協会内他施設を利用し事業展開を行う他、子どもの自主性を大切にすることで心の開放につながった。</p> <p>⑤子ども運営委員会で意見を出し合い、子どもたちの希望を形にする事業展開ができた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>① 20件（100.0%）</p> <p>② 11事業（110.0%）</p> <p>③ 8事業（160.0%）</p> <p>① 970回（95.5%）</p> <p>② 1,168回（287.6%）</p> <p>③ 9,440回（193.7%）</p> <p>④ 3,144回（774.3%）</p> <p>⑤ 1,144回（140.8%）</p> <p>⑥利用者アンケート総合満足度 86.7%</p> <p>⑦利用者アンケート接遇満足度 94.0%</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

他 1 目的外での施設貸与等事業



重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】 ☆夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり 劇場という空間が特別なものではなく、地域に開かれた親しみある劇場として、子どもから大人まで多くの市民が集い合い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取り組みを応援し、人や地域の活性化に繋げる。</p> <p>【施設運営等事業】 ①人形劇等の裾野を広げていくための人材育成の取り組み ②札幌の子ども文化の創造と発信による新たな可能性 ③やまびこ座、こぐま座、中島児童会館との連携による事業の拡充 ④劇場スキルを生かした財源確保と効率的かつ効果的な運営 ⑤子どもの文化施設としての社会的役割と使命</p>	<p>①やまびこ座 年間上演日数 50 日、公演数 85 回以上 (※平成 30 年度 7 か月休館) こぐま座 年間上演日数 120 日、公演数 200 回以上 ②3 団体以上の新規人形劇団の誕生、育成 (平成 29 年度実績 4 団体) ③やまびこ座 年間利用者数 23,000 人の確保 (※平成 30 年度 7 か月休館) こぐま座 年間利用者数 15,000 人の確保 ④利用者アンケートの総合満足度 85%以上</p>
<p>【達成状況】 【地域活動等事業】 東北福島を中心に実施してきた被災地支援活動に加えて、昨年 9 月の胆振東部地震発生後は厚真町への支援活動を実施。劇場ができる人形劇やあそびといった文化的な活動が子どもたちの心のケアにつながるよう、引き続き息の長い支援を行っていく。</p> <p>【施設運営等事業】 ① 1 3 の人材育成事業に丁寧に取り組むことで劇団の誕生と育成を支援した。小・中・高校生にも対象を広げることで中学生劇団の結成にもつながり、目標数値を上回ることができた。 ②劇場の専門スキルを活かし、他団体やアーティストとの関わりによって、創造型 6 事業を積極的に進め、よりよい作品創造によって新たな観客の獲得と両劇場の PR に努めた。 ③中島児童会館、こぐま座の一体運営により平成 30 年 9 月に新たに開設した資料室 MA・SO・BO をはじめ、大人を対象とした人材育成事業など両施設により効果的な運営ができています。 ④北海道大学との共同事業で人形作品をとおしたシンポジウム等の実施や、さっぽろ雪まつりの一環として札幌市公園緑化協会と協働し冬の野外人形劇の実施、関係機関との連携事業や育成指導などに積極的に取り組み、財源の確保に努めた。 ⑤利用団体、ボランティアにも協力を得ることで、来館児童以外にも地域に出向き子ども文化に触れてもらう機会が増加。上演や作品創造のサポートはもちろんのこと、様々な事業を市民と協働実施することで、子ども文化にかかわる社会的役割を意識するとともに利用者の満足度にもつながっていると考える。</p>	<p>【達成状況】 ①やまびこ座 (※大規模改修工事により 7 か月休館) 上演日数 61 日 (122.0%) 公演数 96 回 (112.9%) こぐま座 上演日数 136 日 (113.3%) 公演数 207 回 (103.5%) ②新規人形劇団の誕生、育成 4 劇団 ③やまびこ座 (※大規模改修工事により 7 か月休館) 年間利用者数 30,214 人 (131.3%) こぐま座 年間利用者数 30,631 人 (204.2%) ④総合満足度 99%</p>



公１ 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収１ イベント・物品貸与等事業

他１ 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】 「他部門・他団体との連携のもと、常に新たな社会的課題に挑戦する」 堅実な指定管理業務の履行を最優先にしながらも、社会から必要とされる存在であり続けるために、施設運営を超えて新たな社会ニーズにも対応していく。とりわけ若者への「住」にまつわる支援ニーズの高まりが予測されるため、児童養護施設等の対象年齢から外れる若者や、貧困・家庭内依存等によって離家が困難な状況にある若者らを対象とした調査や、「住」支援の試行的実践に着手する。</p> <p>【施設運営等事業】 ①誰もが平等に利用できる施設であるためにとりわけ貧困等の孤立リスクの高い若者たちにこそ届くような広報や事業を行う。 ②全ての若者が社会の一員として育ち、社会形成の担い手となれるよう、若者（家庭を含む）と地域と関係機関を繋ぐ伴走型支援の拠点づくりに取り組む。 ③「市民と共に運営する公共施設」として透明性を確保するとともに、最小の経費で最大の効果を挙げる。</p>	<p>①利用証の発行を受けた若者等登録者数 16,000人以上</p> <p>②若者登録者の延べ利用数（施設利用と事業参加を合わせて） 200,000人以上</p> <p>③新規に相談を受けた自立支援登録者数 400人以上</p> <p>④自立支援登録者のうちの進路決定者数 345人以上</p> <p>⑤交流促進プログラムに参加した若者の人数 延べ5,000人以上</p> <p>⑥社会活動及び育成プログラムに参加した若者の人数 延べ600人以上</p>
<p>【達成状況】 平成18年度より着手している、ひきこもり等の困難を抱える若者の自立支援事業は、安定した実績から社会的な評価を受けている。雇用情勢の変化に伴い、事業登録者および就労決定者数の減少が全国的にみられるものの、札幌市においては、義務教育を卒業する10代年齢の利用登録に力を入れていることもあり、成果が出ている。 それに伴い、各 Youth+においては昨年度から継続しているキッチンカー事業や、外部団体との連携事業を通じた、10代にむけた“見守りの機能を兼ねた居場所”の充実を図っている。専門機関ほどの強制力をもたない居場所は、学齢・年齢の切れ目を超えるスティグマを生まない日常場면을構成することができ、結果として、孤立リスクのある若者の予防と回復に効果を示すことができた。</p>	<p>【達成状況】 ①利用証の発行を受けた若者等登録者数 14,526人（90.8%） ②若者登録者の延べ利用数 213,083人（106.5%） ③自立支援の新規相談登録者数 308人（77.0%） ④進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数 234人（67.8%） ⑤交流促進プログラムに参加した若者の延べ人数 6,244人（124.9%） ⑥社会活動及び育成プログラムに参加した若者の延べ人数 2,551人（425.2%）</p>

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①財団所有施設である強みを活かし、野外活動や周辺フィールドを活用した自然体験活動等に、グループ活動を主体とした魅力あるプログラムを提供し、青少年の健全育成を図る。</p> <p>②財団が指定管理で運営している野外教育施設部門や、関連団体との横断的な連携により、自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を推進する。</p> <p>③事業実施に付随する、参加者名簿管理や書類発送事務に要する業務フローの見直しを行い、データベースシステムの構築等により人材育成に注力できる基盤を作り、職員の資質向上を目指す。</p> <p>④今年度、財団が滝野自然学園を取得してから10年目を迎える。次の10年を見据えた計画的な運営を行い、多様な形態での利用を受け入れられるよう、これまでの形態にとらわれない積極的な利用促進を行う。</p>	<p>①利用人数 延べ6,776人</p>
<p>【達成状況】</p> <p>①「たきの森のようちえん」、「たきの森のがっこう」、「遊習塾リトルキャンプ」等、滝野自然学園の豊かな自然環境を活かした自然体験活動を実施し、幼児～小学生を中心とした対象者に向けて事業を実施した。</p> <p>②「青少年山の家」、「定山溪自然の村」、「環境プラザ」との連携による「インタープリターズキャンプ2018 in 札幌」において野外教育施設部門との連携事業を実施し、幅広い視点で事業に取り組むことができた。また、小学校家庭教育学級学習会や未就学児子育て事業に講師として参加し、関連団体との関係を深めることができた。</p> <p>③複数名での事業担当を設定することで業務理解を深め、書類発送事務のスピード化を図ることができた。また、データベースシステムを構築し、さらなる事務の効率化に努めた。</p> <p>④新たな利用形態について、類似施設を参考にしながら計画作成に着手した。今後は利用ニーズや自然学園が持つ優位性をPRしながら、平日の利用を中心に利用促進を図っていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①利用人数 延べ6,630人（97.9%）</p>

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供</p> <p>②地域住民との関係性を深めるための事業実施</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①小中学校をはじめとする体験学習への安定的な機会提供および学習機会の強化</p> <p>②学習支援の一環として、精米作業の出前授業を実施</p> <p>③SNSを活用した小中学校に対する事前および事後学習の支援</p> <p>④学びの農園（Learning Garden）実施に向けての調査研究</p> <p>⑤特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携</p>	<p>①出前授業実施校数の増延べ10校</p> <p>②学習館入館料金の収入増127,800円</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>施設のある地元白川地区に自生する山野草について理解を深める事業を展開。シルバー世代を対象に講師を招いて実施した。</p> <p>参加者からは「山野草についての効能や歴史について学ぶことができた」等の学びの声が聞かれ、今後も市内の自然環境に特化したプログラムを提供していきたい。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>当該施設の最大の使命である市内の小中学校を対象とした「農業体験の提供」においては、昨年同様に受け入れ校すべてにおいて、安定的に体験機会の提供を行うことができた。</p> <p>新たな取組みとして、水田体験参加校への出前授業を実施。</p> <p>水田体験に参加した全14校への出前授業を実施し、学習指導要領に則したプログラムを提供することができた。</p> <p>また、市民を対象とした自然体験の事業についても、園内のフィールドを生かして、自然環境と農作物や果樹、生き物についての学びや理解を得られる機会を提供する事ができた。</p> <p>特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの協働体制で運営。運営ノウハウの伝承までには時間を要するが、日常業務におけるアドバイスや作業のマニュアル化を図り、持続的な運営のため、農業技術伝承に努めた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①出前授業実施校数の増14校（140.0%）</p> <p>②学習館入館料金の収入増126,500円（99.0%）</p>

公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①施設利用の領域拡大（開拓）を目指し、体験型・着地型観光と関連性の高いプログラム開発を行う。温泉街利用者や旅行者を新たな利用層と捉え、周辺フィールドを最大限活用したプログラムの提供を試行的に行う。</p> <p>②多様化する休暇取得制度への対応のひとつとして、平日利用者向けの提供プログラムを実施する。天体観測や天体撮影会、夜の自然観察（冬季）等のプログラムを積極的に展開し、平日の利用促進を図る。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①特別支援学級等を対象としたスペシャルニーズキャンプの実践 札幌市内及び近郊の特別支援学級等を対象とした、宿泊学習等における自然体験活動のプログラムを提供する。</p> <p>②野外教育を手法とした課題を抱える若者の支援事業 市内児童会館にて行われている「札幌まなびのサポート事業」への参加者を対象とした、自己肯定感の向上や学力向上につながる直接的な体験活動の機会を提供する。</p> <p>③主催事業や提供物品を見直すこと等による利用者の体験活動の拡充</p> <p>④他団体や企業との連携強化による、野外教育施設としての効果が 高い事業の実施</p> <p>⑤利用促進につながる多様な手法を用いた広報活動の展開</p>	<p>①平日の施設利用率の増加 前年比 9.8%増 (前年平日利用件数：755 件)</p> <p>②若者ボランティア登録数の増加 35 人</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>「ウィンター・キャンプ・フェスティバル」事業では企業 15 社、市民活動団体 1 団体と連携し冬季アクティビティの紹介やテント泊体験の機会提供等を行った。事業終了後、テントサイトの冬季利用件数が増加傾向となり、事業効果が施設運営にも反映された。</p> <p>平日の宿泊を促進するため、ジビエ、コーヒー焙煎、星の撮影会など、各分野の専門的な講師を招いてのあらたな切り口で取り組みを行い、新規利用者獲得の一助となった。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>こども若者事業部内と連携し「課題を抱える青少年の支援プログラム」を実施した。「まなびのサポート事業」に参加している中学生を対象に学習指導要領に則した理科的要素を取り入れた自然体験活動のプログラムを提供した。今後も自己肯定感を高められるプログラム提供を行っていききたい。</p> <p>新たな広報活動の一環としてアウトドアイベントに出展、約 13 万人の来場者に対して施設と事業の PR を行った。</p> <p>また今後需要が見込まれる体験型観光「アドベンチャートラベル」の動向に注視し、広報活動、プログラム考察や指導スキルの向上、各団体との連携強化を図るため活動した。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①平日の施設利用率の増加 前年比 49.4%増 (1,128 件)</p> <p>②若者ボランティア登録者数の増加 26 人 (74.2%)</p>

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】 パッケージドプログラムの調査・研究を行い、プログラム開発に着手する。（自主事業提案）</p> <p>【施設運営等事業】 ①新たな視点を取り入れた野外学習プログラム開発に着手する。 ②南区及び滝野地区周辺の地域資源の活用と関係機関、団体との連携強化を図る。 ③ターゲットに合わせて SNS 等を活用した効果的な広報活動の強化・充実を図る。</p>	<p>①セルフモニタリング 利用のしやすさに対する満足度 82%以上</p> <p>②利用促進計画 実利用人数 43,400 人</p> <p>③閑散期の一般利用団体数 50 団体</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】 SDGs を理解するためのカードゲーム・防災サバイバル体験プログラムなどについて資格取得及びプログラム開発を行い、利用団体や外部への講師派遣を行った。</p> <p>【施設運営等事業】 ①スウェーデンで実践されている野外活動と教科学習を融合したプログラムの講習会実施をとおして、ノウハウの蓄積を行った。 ②札幌軟石を活用した事業を実施したほか、すすらん丘陵公園主催事業への協力、山の家主催事業での公園施設の活用を積極的に行った。 ③野外施設部3施設共同の事業情報誌「キャンプのちから」（年2回発行）をはじめ、フェイスブックやダイレクトメール、既存のミニコミ誌等を活用して施設・事業の周知に努めた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①利用のしやすさ満足度：85.9%</p> <p>②実利用人数：44,612 人（102.8%）</p> <p>③閑散期の一般利用団体数：63 団体（126.0%）</p>



公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 男女共同参画の推進、市民活動の促進などに関する活動をさらに発展させるため、国や関係機関との連携を念頭に置いた取組の実施 【施設運営等事業】 <男女共同参画センター事業> ・若年層を対象とした、国際的なジェンダー平等の動向や現状を学ぶ機会の提供 ・企業などと協働した人材育成事業、環境整備事業の実施 ・ジェンダーに関わる活動を行っている活動団体の組織運営等の支援 <市民活動サポートセンター事業> ・すべての世代に向けたアプローチ ・潜在的な活動者へのアプローチをねらったアウトリーチ事業の実施 <環境プラザ事業> ・さまざまな団体との連携をねらった展示コーナーの活用（共に創る展示） ・市内の環境保全の波及効果をねらった指導者向け研修の実施 <情報センター> ・市民との共創による効果的な情報収集・発信の取組	①男女共同参画センター 男女共同参画啓発事業回数 26回 ②市民活動サポートセンター 市民活動啓発事業回数 8回 相談件数年間 600件 ③環境プラザ 環境活動の機会提供 55回 ④情報センター 「男女共同参画」「市民活動」「環境保全」「消費生活」の意識啓発につながる取組 12回
【達成状況】 ①「女性の活躍」推進が取り上げられ、「男女共同参画」が注目される中、多様な分野におけるジェンダー平等の達成に向けて事業を展開した1年であった。「北海道女性起業家支援ネットワーク事業」や「女性の多様な働き方支援窓口運営事業ここシェルジュ SAPPORO 総合案内業務」を受託するなど、指定管理業務と受託事業の相乗効果の基盤を作ることができた。 ②交流活動支援事業「マチなか×NPO」では、実行委員会での企画運営が成熟し、出展した87団体と協力して市民活動の多様性を広く市民に伝えることができた。また「しみサポ事業サポーター」ではサポーター自らプログラムを企画し事業を行うなど、施設や団体をつなぐ役割を見出すことができた。 ③環境教育の「指導者向け研修」では「児童会館指導員研修」や「インタープリターズキャンプ」を実施し、身近な自然を活用し人と自然をつなぐ事業企画を学ぶ機会提供とともに指導者間のネットワーク構築ができた。また展示コーナーを活用した事業ではさまざまな団体や企業等との関係を築き、今後のさらなる協働のきっかけをつくることができた。 ④情報センターにおいて市民活動サポートセンター事業「しみサポマルシェ」や、幼児親子向け事業「ミニサロン」を実施し、「情報」と「人」、「人」と「人」との出会いを作る情報交流の場を提供することができた。	【達成状況】 ①男女共同参画センター 男女共同参画啓発事業回数 ：26回(100.0%) ②市民活動サポートセンター 市民活動啓発事業の実施：10回(125.0%) 市民活動相談件数：479件(79.8%) ③環境プラザ 環境活動の機会提供：55回(100.0%) ④情報センター 「男女共同参画」「市民活動」「環境保全」「消費生活」の意識啓発につながる取組 ：12回(100.0%)

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ①他課連携に向けての積極的なアプローチと実施 ②安定的な事業実施に必要な人材育成及び計画的な業務の推進 ③他課連携を視野に入れた、各種事業における広報部門での有用性の確立	①イベント事業収益 総額 8,000 万円以上 ②コスト管理 各事業単体における 実収益率 35%以上の確保 (合計 2,800 万円以上)
【達成状況】 ①各種イベントにおいて、こども育成課や若者活動センターなどと連携を図ることができた。 ②外部研修を積極的に受講するとともに、業務を2名体制で設定し、企画事業課職員としての人材育成を図った。 ③外部とのかかわりの中で、児童会館や若者活動センター、野外施設などの活動協会全体をPRすることにより、その後の事業において他課との連携につなげるきっかけとなった。	【達成状況】 ①イベント事業収益 総額 7,624 万円 (95.3%) ②コスト管理 各事業単体における 実収益率 48.2% (合計 3,675 万円)



5. 各課（各施設）の事業実施報告

(1) こども事業課・こども育成課【指定管理事業：児童会館 107 館】

【受託事業：ミニ児童会館 96 館／放課後子ども館 1 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「にじりんドッジ交流会」</p> <p>豊平区内の児童会館・ミニ児童会館が小学校体育館を会場に、交流ドッジボール大会を実施した。得手不得手に関わらず参加しやすいオリジナルルールの設定を行い、大会の共通ルールとした。会館対抗や混合チームでの対抗試合などを行い、遊びをとおして参加者の交流を促進した。あそびのプログラムを開発し、それを楽しみながら体力増進に繋がる事業展開を行い、各会館の日常活動のあそびの幅を広げた。</p>	<p>12/8、1/9、2/2</p> <p>平岸小学校、 あやめ野小学校 計 304 人</p>
	<p>「げんキッズフェス 2019～夢いっぱいじどうかいかん～」</p> <p>児童会館でのクラブ活動の成果発表やあそびの紹介、体験ブースの運営など、子どもたち自身がイベント運営に携わる事業を展開した。また企業の協力を得て、参加児童が会場内の各店舗でさまざまな仕事体験を行った。働く楽しさと責任について、体験をとおして考える機会となった。</p>	<p>2/24</p> <p>サッポロファクトリー 9,000 人</p>
	<p>「平成 30 年度子どもの貧困対策事業『にこにこキャンプ～森のひ・み・つ～』」</p> <p>経済的その他の理由によって、体験活動の機会が少ない家庭の小学生を対象に体験活動の機会を創出するとともに、今後の事業展開を視野に入れ、貧困問題に取り組む団体等とのネットワークの構築を目的にキャンプ事業を実施した。</p> <p>定山溪自然の村で雪山あそびや炊事体験、森の中のスノーハイクなど、冬季の野外体験を楽しめる内容であった。</p>	<p>2/16～17</p> <p>定山溪自然の村 30 人</p>
	<p>「さっぽろこどもサポート事業『福服ギフト』」</p> <p>札幌市における相対的貧困とは何かを適切に伝える意識啓発、及びさまざまな状態にある児童に多様な体験事業を間接的に創出する事業に参加することで、自らが主体的に行動する大切さを伝え、相対的貧困状態に起因する物理的・体験的機会格差の解消や子どもを取り巻く多様な市民への意識啓発として、家庭で不要になった子ども服や絵本を寄付していただきリユース等を行う事業として実施した。</p>	<p>10 月上旬～</p> <p>北区・中央区・ 手稲区・南区・ 清田区 54 館 子ども服 710 着、 絵本等 133 冊</p>

平成30年度 札幌市児童会館（107館）およびミニ児童会館（96館）利用状況

利用状況

(人)

区分	開館日数及び回数（延べ数）	人数	利用人数の内数					
利用者区分			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	31,223	2,379,530	196,434	1,404,584	376,901	74,706	49,271	277,634
ミニ児童会館	27,970	1,517,691	5,442	1,231,843	260,153	685	369	19,199
占用利用	11,121	166,909	7,526	29,850	35,689	24,702	3,932	65,210
総利用		4,064,130	209,402	2,666,277	672,743	100,093	53,572	362,043

総利用人数（前年度4,006,829人・前年度比101.4%）

（児童クラブ在籍数）

(人)

区分	平成30年4月末日現在の在籍数							延べ入会	延べ退会	平成31年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	5,459	4,990	3,778	2,322	972	392	17,913	21,725	3,135	5,972	5,216	3,792	2,261	956	393	18,590

4月末日現在の在籍数の比較（前年度16,796人・前年比106.6%）

（障がい児受け入れ数）

(人)

内訳

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	クラブ	直来
普通学級	108	128	122	84	47	24	513	473	40
特別支援学級	52	93	92	65	43	35	380	255	125
特別支援学校	0	0	2	3	2	4	11	2	9
計	160	221	216	152	92	63	904	730	174

（前年度 950人・前年比 95.2%）



(2) こども劇場課

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	<p>「初心者のための人形劇講座」</p> <p>やまびこ座、こぐま座では、オープン以来、初心者を対象に人形劇人の育成、公演活動の活性化等の目的で人形劇講座を毎年実施している。今年度も昼コースはやまびこ座、夜コースはこぐま座で開催。</p>	<p>4/19～7/15</p> <p>54 回</p> <p>やまびこ座</p> <p>こぐま座</p> <p>延べ 363 人</p>
	<p>「こどものまなび塾フォローアップ講座」</p> <p>昨年度の「こどものまなび塾」受講生が、こどもと関わる実践の場として、中島児童会館やこぐま座等でのイベントに参加し、あそびの仕掛け、展開力を学び、本年度のまなび塾にリーダーとして参加できる人材の育成を図る。</p>	<p>4/26～8/30</p> <p>12 回</p> <p>こぐま座</p> <p>延べ 76 人</p>
公演事業	<p>「やまびこ座・こぐま座プロデュース人形劇 北海道の創作人形劇 Part 1」</p> <p>児童文化を創造発信する両劇場がプロデュースし、より質の高い人形劇作品の創造に努めた。アイヌ文化や北海道の各地域に伝わる民話などを題材とし、子どもたちに歴史や文化への理解を深めてもらう目的でワークショップ、公演を実施した。</p> <p>人形劇「奇跡の庭～じかん島のひみつ～Excavators Of Time Island vol.1」</p>	<p>2/23～24</p> <p>こぐま座</p> <p>中島児童会館</p> <p>804 人</p>
連携事業	<p>「中島児童会館・こぐま座連携事業 ゆきあかり in 中島公園 冬の野外巨大人形劇『宮沢賢治～雪わたり～』」</p> <p>雪まつり期間中に中島公園で毎年開催されるゆきあかり in 中島公園事業として、中島児童会館・やまびこ座・こぐま座で育成する小学生から大学生の子どもたちが、専門スタッフやアーティストと共に雪像を舞台にした冬の野外人形劇を制作、上演した。野外での新たな作品創造に挑戦し、中島公園のロケーションを活かした事業を展開することで、中島児童会館・こぐま座の存在をより多くの方々に知っていただき、今後の来館者や観劇者数の増加、観光振興へつなげていく。</p>	<p>2/8～10</p> <p>中島公園</p> <p>1,517 人</p>
国際交流事業	<p>「札幌・ノボシビルスク芸術文化活動を通じた国際交流事業」</p> <p>札幌市との姉妹都市であるロシア・ノボシビルスクに、やまびこ座・こぐま座で人形劇や人形浄瑠璃の活動を行っている大学生を中心に派遣し文化活動とおした国際交流事業を実施した。ワークショップや公演を通じ、これからの国際交流を担う若年層へアプローチをすることで、姉妹都市間の次世代の交流活動が活性化し調和的発展につながる取り組みとなった。</p>	<p>10/1～7</p> <p>ロシア・ノボシビルスク</p> <p>延べ 2,260 人</p>

平成30年度 札幌市こども劇場利用状況報告

■こどもの劇場「やまびこ座」 ※大規模改修工事により、7か月休館

【利用状況】

区 分	件 数 (件)	人数(人)	稼働率
ホール	269	14,032	貸室利用総人数 24,768人 63.7%
会議室	187	1,884	
研修室	227	4,856	
美術工作室	255	3,996	
ロビー・展示室・図書コーナー	-	3,526	
研修・見学	-	1,920	
総 利 用 数	938	30,214	

利用件数 (前年度 2,309件・前年比 40.6%)

利用人数 (前年度 64,280人・前年比 47.0%)

【ホール利用内訳】

観劇者数	無料(人)	1,052
	招待(人)	958
	有料(人)	6,503
	合計(人) ... (a)	8,513
出演者の数(含むリハーサル)(人)	... (b)	5,519
出演者観劇者総数(人)	... (a+b)	14,032
上演回数(回)		96
上演日数(日)		61
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		61
上演1回あたりの観客数(人)		89

■こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況 (ホール利用内訳)】

観劇者数	無料(人)	1,605
	招待(人)	810
	有料(人)	9,286
	合計(人) ... (a)	11,701
出演者の数(含むリハーサル)(人)	... (b)	5,465
出演者観劇者総数(人)	... (a+b)	17,166
研修・見学	... (c)	13,465
利用者総数	... (a+b+c)	30,631
上演回数(回)		207
上演日数(日)		136
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		291
上演1回あたりの観客数(人)		56.5

利用人数 (前年度 23,180人・前年比 132.1%)



(3) 若者支援事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

①各館の取り組み

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	「Youth+豊平 交流促進プログラム『ルソンリユージュ』」 多世代の学習交流のきっかけを提供するためのグループ活動。大学生参加者が、自習利用を目的とする中高生を呼び込み、学習を通じた交流を行っている。学習ばかりではなく、ボードゲームなどを通じたレクリエーションも実施し交流のきっかけとなっている。	7/7～月 2 回 (延べ 4 回) Youth+豊平 29 人
	「Youth+センター 居場所型プログラム『Youth+札幌にじゅう』」 LGBT 向けの居場所づくりを検討していた民間団体「にじゅうほっかいどう」との協働型事業。LGBT の若者向けの居場所づくりを行った。東京で実践されている「にじゅう」の取り組みにユースワーカーが介在するという札幌方式を模索していく。	3/10 Youth+センター 30 人
	「Youth+アカシア 交流促進プログラム Youth Live Party!!vol.2 『平成最後の文化祭』」 若者の声をもとに実施した、音楽イベント事業。音楽を通じて他者と交流する機会とするため、出演者同士がグループの垣根を越えて練習する機会を設けた。結果、単なる音楽イベントを超えた他者とのつながりが生まれ、参加者同士が認め合うきっかけとなった。	3/26 Youth+アカシア 100 人
社会参加促進事業	「Youth+センター育成プログラム『施設イベント実行委員会』」 社会形成人材の育成を目的に、初期体験のきっかけとして、普段使っている施設のイベントを企画・運営するため、実行委員会活動を通じた育成事業を行った。自分と考えの違う他者との意見交換をしながら、自分たちの意見が形になっていく経験の場となった。	6/5～月 2 回程度 (延べ 13 回) Youth+センター 延べ 94 人
	「Youth+ポプラ 育成プログラム初期体験型『リユース事業』」 使用しなくなった参考書や教材の再活用事業。高校・大学に進学する若者のうち、特に生活困窮世帯の若者にむけて、使用しなくなった参考書や教材を提供した。近隣の児童会館とも連携し、計 62 冊の参考書が集まった。	3/8～22 Youth+ポプラ 19 人 (寄贈者+提供者)

②Y o u t h +全館

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	「Youth+全館 育成プログラム『数字で社会が見えてくる』」 運営協議会にて委員の意見を反映して実施した事業。来館している若者の社会意識のボトムアップを目的に、ロビー掲示スペースに社会的出来事に関する数字とその解説を掲示し、若者に意見を書いてもらうという取り組みを実施した。	11/1～3/31 Youth+全館 345 人

平成30年度若者支援施設利用状況

単位：人

内訳	センター	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	合 計
自立支援事業	15,186	0	0	0	0	15,186
若者	10,999	0	0	0	0	10,999
一般	4,187	0	0	0	0	4,187
交流促進事業	6,343	2,869	1,741	2,434	7,746	21,133
若者	6,286	2,774	1,737	2,400	6,254	19,451
一般	57	95	4	34	1,492	1,682
社会参加促進事業	1,037	1,212	2,057	1,209	782	6,297
若者	897	867	1,957	863	781	5,365
一般	140	345	100	346	1	932
ロビー利用	12,901	4,610	6,513	6,541	16,367	46,932
若者	12,881	4,495	6,399	6,190	13,842	43,807
一般	20	115	114	351	2,525	3,125
貸室利用	33,606	40,459	9,753	36,206	61,834	181,858
若者	25,950	33,886	6,577	28,952	38,540	133,905
一般	7,656	6,573	3,176	7,254	23,294	47,953
合 計	69,073	49,150	20,064	46,390	86,729	271,406
若者	57,013	42,022	16,670	38,405	59,417	213,527
一般	12,060	7,128	3,394	7,985	27,312	57,879
平成29年度	73,234	58,156	23,208	52,912	94,186	301,696
各施設前年度比	94.3%	84.5%	86.5%	87.7%	92.1%	90.0%



(4) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主事業：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「たきの森のがっこう」</p> <p>小学1～6年生を対象とした自然体験事業として実施。滝野自然学園を会場に、木登りや雪中キャンプ等の自然界との直接的な関わりの中から、子どもたちの豊かな感性を育み生きる力を育てる機会とすることを目的に実施した。</p>	<p>10月～2月</p> <p>(全5回)</p> <p>滝野自然学園</p> <p>延べ172人</p>
	<p>「たきの森のようちえん」</p> <p>2歳以上の乳幼児とその保護者を対象とした自然体験事業。幼児期の子どもたちがのびのびと遊ぶことができる場を提供し、森を中心とした自然体験の機会を持つことで健やかな成長を目指すとともに、親同士の交流を促し、参加に対する不安や負担を緩和していただくことを目的に実施した。</p>	<p>10月～2月</p> <p>(全18回)</p> <p>滝野自然学園</p> <p>延べ435人</p>
	<p>「遊雪塾リトルキャンプ」</p> <p>小学校低学年を対象とした自然体験事業として実施。グループ活動を基本に、キャンプ活動において仲間たちとチャレンジする機会を設け、参加者同士のつながりの楽しさや大切さを実感する機会として実施した。</p>	<p>3/9～10</p> <p>滝野自然学園</p> <p>24人</p>
職員派遣事業	<p>「その他指導業務『札幌市立福井野小学校家庭教育学級学習会への講師派遣』」</p> <p>家庭教育学級学習会の講師として「子どもの外遊びや体験活動の重要性」をテーマに講話とマイ箸作り体験会を実施した。講話では自然体験活動の効果と世界でも先進的な取り組みを行っているスウェーデンの教育について紹介を行った。</p>	<p>10/18</p> <p>札幌市立福井野小学校</p> <p>17人</p>

平成30年度滝野自然学園 利用集計(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	35	530	488	1,215	915	640	498	278	309	1,003	562	157	6,630
団体数	1	9	9	20	12	10	9	6	7	19	10	3	115

前年度比

延べ人数:97%(前年度人数6,834)
団体数:103.6%(前年度団体数111)

(5) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域活動等事業	<p>「体験農場」</p> <p>畑、水田希望校に対して学習指導要領に則した体験授業を実施した。</p> <p>低学年は畑にてジャガイモやトウモロコシの生育について学び、高学年については稲の植え付けから収穫、脱穀、精米までの一連の流れを学ぶ機会を提供した。</p> <p>また水田体験校に対して出前授業を実施。理科単元に即したプログラムを提供することができ、参加校からは一定の評価をいただくことができた。</p>	<p>6月～11月</p> <p>北方自然教育園</p> <p>延べ3,421人</p> <p>(64校)</p>
	<p>「昆虫飼育ふれあい隊」</p> <p>小学生の長期休業期間に昆虫飼育体験事業を実施、飼育ケースの準備、餌やり、観察をとおり生物の生態や生命の尊さを学ぶ機会を提供した。</p> <p>参加者からは「生き物の育て方を学ぶことができた」等の感想があり、生態系への理解に繋げる学習機会となった。</p>	<p>7/21～3/31</p> <p>北方自然教育園</p> <p>10回(12組)</p> <p>延べ35人</p>
	<p>「森と池の生き物たちを観察しよう」</p> <p>森と水辺の生き物を中心とした観察や調査体験をとおり自然環境に対する理解を深めることを目的に北海道自然観察協議会と共催で実施した。講師より観察池を中心に水生昆虫などの解説をおこなった。</p> <p>参加者からは「森と水のつながりを学ぶことができた」等の感想があり生物に対する興味関心につながる機会となった。</p>	<p>7/28</p> <p>北方自然教育園</p> <p>7人</p>

平成30年度 札幌市北方自然教育園 月別利用状況一覧表

月	施設利用						体験農場										自然 体験 学習会		自然 ふれあい 事業		その他事 業等(ボラ ティア等)		事業		合計			
	学校・園		一般		小計		学校・園								小計													
							畑		水田		梨		サクランボ															
	校数	人数	団体	個人	人数計	団体	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数 (団体)	人数	
4	0	0	1	10	227	237	1	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	1	257		
5	3	119	5	466	506	972	8	1,091	3	119	0	0	0	0	0	3	119	20	73	8	9	0	27	28	109	39	1,319	
6	16	1,009	4	78	265	343	20	1,352	1	37	14	895	0	0	1	77	16	1,009	10	32	0	0	0	239	10	271	46	2,632
7	2	66	1	24	355	379	3	445	0	0	0	0	0	0	2	66	2	66	15	56	14	36	0	53	29	145	34	656
8	4	248	8	242	426	668	12	916	3	76	0	0	0	0	0	3	76	19	80	0	0	4	37	23	117	38	1,109	
9	9	522	1	44	247	291	10	813	3	117	6	405	0	0	0	0	9	522	1	2	0	0	0	23	1	25	20	1,360
10	17	701	6	310	405	715	23	1,416	0	0	8	499	9	202	0	0	17	701	9	26	1	1	0	13	10	40	50	2,157
11	0	0	3	96	128	224	3	224	0	0	13	865	0	0	0	0	13	865	6	16	0	0	0	13	6	29	22	1,118
12	0	0	0	0	44	44	0	44	0	0	1	63	0	0	0	0	1	63	31	102	0	0	2	8	33	110	34	217
1	0	0	1	48	61	109	1	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	34	8	25	4	12	23	71	24	180	
2	0	0	2	57	45	102	2	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	33	1	6	9	39	11	141	
3	0	0	0	0	95	95	0	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	2	12	4	20	4	115	
合計	51	2,665	32	1,375	2,804	4,179	83	6,844	10	349	42	2,727	9	202	3	143	64	3,421	122	421	41	112	13	463	176	996	323	11,261

前年度比 人数：95.3%(前年度人数 11,815)
組数：77.3%(前年度組数 418)

(6) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出 事業	<p>「森もりレンジャー」</p> <p>石狩森林管理署と事業協定を締結している「定山溪遊々の森」において家族単位で参加する森づくり体験を実施した。</p> <p>間伐や下草刈り、間伐材を活用した遊具づくりなど森と人とのつながりを学ぶ機会を提供することができた。</p>	<p>5/27、6/17、 7/22</p> <p>(9/17 北海道胆振東部地震により中止)</p> <p>定山溪自然の村 49 人</p>
	<p>「親子で『こそ練』キャンプ」</p> <p>キャンプ未経験の親子を対象としたテントの設営撤収方法、キャンプ道具の使用方法などを学ぶ日帰りプログラムを実施した。</p> <p>職員から設営撤収に至るまでの手順やキャンプ道具の使い方などの説明を受け、来るキャンプデビューに向けて学びを深めていた。参加者からは「キャンプ場でのマナーを学ぶことができた」等の声が聞かれ事業をととして野外活動の振興につながる機会となった。</p>	<p>7/1、7/8</p> <p>定山溪自然の村 28 人</p>
	<p>「定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル」</p> <p>定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバルでは、北国ならではの環境を最大限に活用した冬季キャンプスタイル提案として関係団体、企業と協働で実施した。広報活動においては協力団体による独自の SNS 配信やシェアなどによりこれまで以上に事業の情報を広く周知することにつながり前年度に比べ参加者が大幅に増加した。</p>	<p>1/19～20</p> <p>定山溪自然の村 延べ 600 人</p>
	<p>「ウィークデイプログラム」</p> <p>多様化する休暇取得制度への対応のひとつとして、平日利用者向けの提供プログラムを実施した。</p> <p>外部講師を招いたプログラムでは星空の撮影方法やジビエ料理体験などプレミアムで普段体験することのできない活動をととして参加者同士の交流を図る機会となり、利用者拡大につながった。</p>	<p>10/26、12/14、 3/22</p> <p>定山溪自然の村 17 人</p>
	<p>「キャンプモニター事業」</p> <p>多様化するニーズに合致した野外活動事業を提案していくため市民を対象としたモニター調査を夏季、冬季の 2 回実施、300 件以上の結果から定山溪自然の村に求められるニーズを分析する機会となり次年度事業計画策定の指針となった。</p>	<p>夏季 100 件 冬季 202 件</p> <p>定山溪自然の村</p>

平成30年度施設利用状況

<利用件数>

(件)

区分	平成30年度	平成29年度	前年度比
コテージ	2,437	2,401	101.5%
テントハウス	1,092	1,061	102.9%
テントサイト	2,707	2,223	121.8%
合計	6,236	5,685	109.7%

<利用人数>

(人)

区分	平成30年度	平成29年度	前年度比
コテージ	9,259	9,180	100.9%
テントハウス	4,508	4,557	98.9%
テントサイト	6,231	5,690	109.5%
見学者	414	409	101.2%
合計	20,412	19,836	102.9%



(7) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	<p>「ウィルダネスファーストエイド野外・災害救急法資格取得講習会WF Aベーシックレベル」</p> <p>野外教育・自然体験活動指導者等を対象に医療機関へ引き渡しや対応が困難な環境や災害などの状況下における基礎的な救急法の講習会を実施。実際の状況を想定したシミュレーションを中心に、傷病者の命が奪われてしまう緊急な状態かどうかを評価し、医療機関への引き渡しまで適切な保護を行える基礎的な技術を学んだ。</p>	<p>5/12～13</p> <p>青少年山の家</p> <p>21 人</p>
	<p>「キャンプを学ぼうキャンプ～自然×あそび×人～」</p> <p>若者世代の自然体験活動に対する関心を高め、グループ活動をとおした他者との関わりの意義・楽しさを学び、次世代を担う子どものための自然体験活動指導者の人材確保を図ることを目的に実施した。雪遊びをテーマに、すぐに現場で活用できる冬の自然遊びの実施と、参加者が企画したプログラムの相互指導などを行った。</p>	<p>1/26～1/27</p> <p>青少年山の家</p> <p>4 人</p>
生涯学習事業	<p>「軟石クラフト体験会」</p> <p>札幌市南区の地域資源である「札幌軟石」について、石山緑地・辻石材常盤採掘場・青少年山の家をバスで巡りながら、親子で学ぶ機会を設けた。軟石の歴史や、採掘体験、軟石を使用したペンダント作りなど、「軟石」歴史からその利用法まで、体験を通して学習した。</p>	<p>6/30</p> <p>石山緑地・辻石材常盤採掘場・青少年山の家</p> <p>38 人</p>
青少年キャンプ事業	<p>「防災サバイバルキャンプ」</p> <p>有事の際に生き抜く手だてを体験的に楽しみながら学習するとともに、便利な暮らしを見つめ直し、自助・共助の精神を育むことを目的に実施。冬の被災を想定し、イグルーづくりや雪中泊、雪山での遭難体験などを行った。</p>	<p>2/2～2/3</p> <p>青少年山の家</p> <p>24 人</p>
	<p>「はじめてのスキーキャンプ」</p> <p>スキー経験のない、またはスキーを苦手と感じる小学校低学年児童を対象に、スキーと雪の活動及び集団生活をとおして生きる力を育むことを目的に実施した。スキー靴の履き方やリフトの乗り方、ゲレンデでの滑り方などを練習した。</p>	<p>1/12～1/14</p> <p>青少年山の家</p> <p>47 人</p>

平成 30 年度 札幌市青少年山の家利用状況

項目		合計		
		団体数	実利用者数	延利用者数
学 校	幼稚園等 (4歳以上)	26	798	1,368
	小学校	404	26,570	43,009
	中学校	70	5,000	6,730
	高校	22	1,016	2,289
	盲聾養護学校	3	101	169
	専門学校	2	88	173
	大学	6	137	258
	その他の学校	0	0	0
青少年団体	少年団体	58	2,430	4,120
	青年団体	22	690	1,375
指導者団体	学校教育関係	0	0	0
	社会教育関係	8	279	548
親子		12	181	289
官公庁		35	2,034	3,251
その他		114	4,307	8,402
主催事業		28	981	1,385
計		810	44,612	73,366

団体数(前年度:802件、前年比101.0%)

実利用者数(前年度:46,639人、前年比95.7%)

延利用者数(前年度:78,502人、前年比93.5%)



(8) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
市民活動振興事業	<p>「ジェンダーイシューに関わる事業＜SDGs＞講演会」</p> <p>林文子横浜市長より、女性が社会で活躍するために必要な手立てを考えるきっかけとして、市長のキャリアや横浜市の取り組みについてお話しいただいた。</p>	<p>5/17</p> <p>ニューオータニイン 札幌</p> <p>164 人</p>
	<p>「若年層のための相談『ガールズ相談』」</p> <p>性やデートDV、進路選択、ネット犯罪など、若年層女性を取り巻く課題を解決し、相談者の自己肯定感を高めることを目的に、LINE を活用した相談窓口を実施した。</p>	<p>8/20～9/2</p> <p>相談件数：887 件 相談完了件数：175 件</p>
	<p>「りぷるサロン」</p> <p>「企業とフェアネス」をテーマとしたディスカッションや、女性活躍を妨げる職場のセクシュアルハラスメントの現状や社会のジェンダー不平等について知る機会とすることを目的とした講演会やワークショップ、被災女性特有の問題やその支援の在り方や札幌の防災について考えるディスカッションを実施した。</p>	<p>8/27、11/23、1/24</p> <p>情報センター 延べ 85 人</p>
	<p>「マチなか×NPO『クリスマスちょこっと市 知ってる？市民活動』」</p> <p>NPO と市民の出会い創出を目的に市内で活動する市民活動団体延べ 87 団体が参加し、市民活動の PR パネル展示等を行った。</p> <p>また、出展団体の有志による実行委員会を組織して、事業運営（出展調整・事前ミーティング進行・会場の設営及び撤収作業・ボランティアコーディネート）を担当した。</p>	<p>12/5～7</p> <p>札幌駅前通地下歩行空間 北 3 条交差点 広場（西）</p> <p>延べ 8,294 人 （スタッフ 610 人、ボランティア 15 人、来場者 7,669 人）</p>
	<p>「展示コーナーの活用あそびバ！エコプラザ」</p> <p>NPO・企業・学生・市民団体等が環境保全に関わるプログラムを実施する機会を設けることで、団体の環境活動を支援すると共に、主に小学生の参加者への意識啓発と行動を喚起するために実施した。（出展：7 団体）</p>	<p>10 月～3 月</p> <p>第 2、4 土曜日</p> <p>21 回</p> <p>環境プラザ、 情報センター</p> <p>延べ 289 人</p>
	<p>「市民活動団体ミニ講座」</p> <p>広く市民が関心のあるテーマで市民活動団体の活動内容を伝える機会として実施した。</p> <p>第 1 回目 市民活動サポートセンター・環境プラザ共催「まさか！に備えて天気を味方につけよう」（お天気プラス）</p> <p>第 2 回目 市民活動サポートセンター・情報センター共催「居場所のチカラ～吃音カフェの活動をとおして～」（北海道言友会）</p>	<p>2/3、3/2</p> <p>環境プラザ 情報センター</p> <p>延べ 28 人</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
受託事業	<p>「女性起業家交流会」</p> <p>札幌市からの受託事業。女性起業家や創業支援機関と、起業を目指す女性の交流の場を創出することを目的に実施。北海道内の女性起業家による商品の展示（物販を含む）も同時開催。</p>	<p>2/15</p> <p>札幌市民交流プラザ</p> <p>75 人</p>
人材育成事業	<p>「指導者向け事業」</p> <p>環境に関する視点を日常の遊びや活動に取り入れるきっかけづくりを目的に、環境教育の指導者向け研修として、児童会館の指導員を対象に公園等でできる自然遊び体験の指導と活動プログラムの提案を行った。</p>	<p>12/18</p> <p>東苗穂公園、 東苗穂児童会館</p> <p>27 人</p>
	<p>「女性リーダー養成研修」</p> <p>企業や組織に所属する女性社員を対象に、「企業と社会の未来を担う女性リーダーの創出」をテーマとして、講演や研修を行った。</p>	<p>11/16、11/29、 12/21、1/11、2/14</p> <p>男女共同参画センター 延べ 79 人</p>

平成 30 年度 札幌エルプラザ公共 4 施設利用状況

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
男女共同参画 センター	施設利用	件数	2,480	2,591	2,771	2,775	2,467	2,274	2,694	2,840	2,427	2,279	2,658	2,888	31,144
		人数	27,862	28,266	29,366	29,040	26,267	27,094	28,981	30,876	27,561	26,392	38,700	31,034	351,439
	相談事業	件数	11	15	17	14	775	140	14	14	14	834	16	16	1,880
	視察・見学	件数	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
		人数	0	0	0	27	0	0	0	2	0	0	0	0	29
	施設外事業	件数	1	1	0	0	0	0	2	5	2	1	1	0	3
	人数	33	164	0	0	0	0	0	129	288	94	28	70	312	1,118
	計	件数	2,481	2,592	2,771	2,777	2,467	2,274	2,696	2,846	2,429	2,280	2,659	2,891	31,163
		人数	27,906	28,445	29,383	29,081	27,042	27,234	29,124	31,180	27,669	27,254	38,786	31,362	354,466
消費者 センター ※	施設利用	件数	259	275	254	314	269	326	375	285	236	242	291	304	3,430
		人数	1,521	2,046	2,003	2,574	2,210	2,977	2,959	2,499	2,099	1,989	2,195	2,015	27,087
	相談事業	件数	1,136	1,193	1,176	1,249	1,001	868	1,446	984	855	820	866	907	12,501
	視察・見学	件数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		人数	0	0	0	0	0	0	22	22	0	0	0	0	44
	計	件数	259	275	254	314	269	326	375	286	236	242	291	304	3,432
	人数	2,657	3,239	3,179	3,823	3,211	3,845	4,427	3,505	2,954	2,809	3,061	2,922	39,632	
市民活動 センター	施設利用	件数	1,495	1,577	1,505	1,456	1,514	1,268	1,525	1,515	1,326	1,210	1,423	1,637	17,451
		人数	4,995	5,123	4,922	4,639	4,548	4,111	4,995	4,999	4,515	4,217	4,697	5,138	56,899
	相談事業	件数	35	35	46	43	52	28	49	52	25	37	38	39	479
	視察・見学	件数	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	6
		人数	4	51	0	6	37	0	0	0	0	0	14	0	112
	施設外事業	件数	0	0	1	1	2	0	0	0	2	1	0	0	7
	人数	0	0	62	12	314	0	0	0	8,294	44	0	0	8,726	
	計	件数	1,496	1,579	1,506	1,458	1,517	1,268	1,525	1,515	1,328	1,211	1,424	1,637	17,464
		人数	5,034	5,209	5,030	4,700	4,951	4,139	5,044	5,051	4,515	4,298	4,749	5,177	66,216
環境プラザ	施設利用	件数	189	170	197	164	168	170	185	203	168	170	195	195	2,174
		人数	2,532	1,970	2,312	2,078	2,390	1,853	2,549	3,301	2,253	2,162	2,557	2,349	28,306
	相談事業	件数	6	1	14	8	8	10	10	4	3	11	9	6	90
	視察・見学	件数	1	1	2	7	9	2	5	0	5	4	0	0	36
		人数	76	11	80	166	359	69	234	0	200	296	0	0	1,491
	展示コーナー	件数	3,378	2,125	2,305	3,351	3,361	3,013	3,285	3,320	3,834	2,930	3,533	4,270	38,705
総合学習	件数	0	110	92	310	200	0	249	16	20	222	106	0	1,325	
施設外事業	件数	0	0	1	1	3	2	3	0	1	2	0	3	16	
	人数	0	0	1,012	28	58	54	68	0	27	1,923	0	483	3,653	
	計	件数	190	171	200	172	180	174	193	203	174	176	195	198	2,226
		人数	5,992	4,217	5,815	5,941	6,376	4,999	6,395	6,641	6,337	7,544	6,205	7,108	73,570
公共4施設	施設利用	件数	4,423	4,613	4,727	4,709	4,418	4,038	4,779	4,843	4,157	3,901	4,567	5,024	54,199
		人数	36,910	37,405	38,603	38,331	35,415	36,035	39,484	41,675	36,428	34,760	48,149	40,536	463,731
	相談事業	件数	1,188	1,244	1,253	1,314	1,836	1,046	1,519	1,054	897	1,702	929	968	14,950
	視察・見学	件数	2	3	2	10	10	2	6	2	5	4	1	0	47
		人数	80	62	80	199	396	69	256	24	200	296	14	0	1,676
	展示コーナー	件数	3,378	2,125	2,305	3,351	3,361	3,013	3,285	3,320	3,834	2,930	3,533	4,270	38,705
総合学習	件数	0	110	92	310	200	0	249	16	20	222	106	0	1,325	
施設外事業	件数	1	1	2	2	5	2	5	5	5	4	1	6	39	
	人数	33	164	1,074	40	372	54	197	288	8,415	1,995	70	795	13,497	
	計	件数	4,426	4,617	4,731	4,721	4,433	4,042	4,790	4,850	4,167	3,909	4,569	5,030	54,285
		人数	41,589	41,110	43,407	43,545	41,580	40,217	44,990	46,377	49,794	41,905	52,801	46,569	533,884

※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む

情報センター	人数	6,847	6,270	6,359	6,484	7,214	6,139	6,449	6,962	6,169	6,705	9,856	7,314	82,768
--------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

平成30年度札幌エルプラザ公共4施設総利用者数	46,436	47,380	49,766	50,029	48,794	46,356	51,439	53,339	55,963	48,610	62,657	53,883	616,652
-------------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

前年度比 総利用者数：98.2%（前年度627,964）

(9) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業、受託事業】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自主企画事業	<p>「ZOO ナイトキャンプ」</p> <p>円山動物園と協働し、小学校4年～6年生を対象として環境プログラムを展開した。円山動物園に象がやってくるため、建設途中の象舎の見学や飼育員による象の話をプログラムに取り入れるなど、参加児童が楽しみながら学べる展開とした。</p>	<p>8/6～8/7</p> <p>円山動物園</p> <p>29人</p>
受託事業	<p>「栗山町・くりやま若者サポーター育成事業における町広報誌紙面ディレクション及びワークショップ運営業務」</p> <p>栗山町の主催事業としてオフィスGACより受託。栗山町の魅力を伝えるための紙面づくりの講師及びディレクションを担当した。月刊誌「広報くりやま」の紙面づくりとして栗山町の若者を対象にワークショップを行い、その過程の中で世代間交流も図ることができた。</p>	<p>9/28～3/2(全4回)</p> <p>栗山町内公共施設</p> <p>延べ23人</p>
	<p>「『元気です!!北海道プロジェクト』送迎バス招待事業業務」</p> <p>さっぽろ雪まつりつどーむ会場全体の制作業務を担っている株式会社ノヴェロより受託した業務で、震災地域(むかわ町、厚真町、安平町)の親子を招待し、観光バスの手配から場内アテンションなどを行った。</p>	<p>2/2、2/3、2/9</p> <p>つどーむ</p> <p>253人</p>
	<p>「第70回さっぽろ雪まつり大通会場10丁目における大雪像制作等業務」</p> <p>さっぽろ雪まつり実行委員会より受託した事業。大通10丁目を会場に大雪像(白いスターウォーズ)を制作した。模型の段階から制作を行い、従事する制作隊スタッフの手配を始め、制作ボランティアや札幌市職員従事者の対応を行った。</p>	<p>9/1～3/10</p> <p>市役所会議室、 大通10丁目会場</p> <p>2,737,000人 (来場者)</p>
	<p>「国営滝野すずらん丘陵公園青少年山の家における『歩くスキー出前授業』実施業務」</p> <p>札幌市スポーツ局より受託した事業で、市内小学校の宿泊学習として青少年山の家を利用した小学校を対象に、歩くスキー出前授業のコーディネートを行った。</p>	<p>1/23～3/8(全16回)</p> <p>青少年山の家</p> <p>延べ1,402人</p>
企画提案事業	<p>「次世代の活動の担い手育成事業」</p> <p>札幌市市民文化局より受託。小学生から中学生、高校生、若者という世代別で取り組んだ。中学生ワークショップでは、まちづくり意見交換会を実施し、その様子を株式会社ジェイコムに放映していただいた。その他の世代対象の事業としてまちづくりゲームの普及や雪まつりボランティア、まちフェスのコーディネート等、多数の事業を行った。</p>	<p>7/25～3/31</p> <p>教育文化会館他</p> <p>小学生部門：153人 中学生部門：23人 高校生部門：148人 大学生部門：105人</p>

(10)その地 地域活動等事業等（こども育成事業、財団連携事業）

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
学習支援事業	<p>「札幌まなびのサポート事業『遊學舎 まなべえ』」</p> <p>生活困窮世帯の中学生を対象とした学習支援事業として、市内 40 会場で実施している。平成 24 年度からの継続事業であることから、まなべえを経て高校に進学した参加者数も増加している。その繋がりを活かし、現在事業に参加している中学生と高校生の交流活動を通して意欲向上に繋がる事業展開を行っている。</p>	<p>6 月より週 1 回</p> <p>市内 40 会場</p> <p>登録中学生 496 人</p> <p>学習支援サポーター 275 人</p>
体験機会創出事業	<p>「生活協同組合コープさっぽろフードバンク事業」</p> <p>食品等を必要としている団体および個人に対して適切な管理及び責任のもとで食品の提供を行っている事業所との連携により、当財団で実施している学びのサポート事業参加の中学生に対して食品等の提供を行うとともに、食品ロスの削減や食育の取り組みについて取り組んだ。</p>	<p>11 月中旬～3/20</p> <p>学びのサポート事業実施会場</p> <p>40 会場</p>
受託事業	<p>「子どものくらし支援コーディネート事業」</p> <p>札幌市子ども未来局子どものくらし支援担当課からの受託事業。経済的な問題だけでなく、家庭環境等にさまざまな困難を抱えている子どもやその家庭を早期に発見し、必要な支援につなげる「子どもコーディネーター」を配置している。子どものくらしを支える相談支援体制の充実を図るべく児童会館を中心とした、地域で子どもと関わる関係先を積極的に巡回し、子どもが生まれ育った環境によって左右されることなく、成長していくことができる社会の実現を目指し取り組んでいる。</p>	<p>10/1～3/31</p> <p>北区、東区、西区、白石区、豊平区、清田区</p> <p>6 区内全 30 地区</p> <p>339 件</p>



6. 重要な契約に関する事項

(1) 地域活動等事業

(千円)

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	45,907
地域若者サポートステーション事業	厚生労働省	41,500

(2) 指定管理事業

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,362,110
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	238,446
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	172,550
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	124,686
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	74,039
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	43,668
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	29,783

(3) 受託事業

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	1,891,080
札幌市「石山東小放課後子ども館」管理運営業務	札幌市長	4,201

7. こども基金 (スマイルキッズ)

(1) 協力者一覧

寄付金総額 2,180,000 円 全 159 件

【法人】 13 件

寄付者氏名	寄付額
株式会社ハビングループ	160,000
株式会社館野オフィスサービス	80,000
有限会社 布遊工房	50,000
その他	215,000
合 計	505,000

【個人】 53 件

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	815,000
合 計	815,000

【団体】 93 件

(円)

寄付者氏名	寄付額
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 後援会	50,000
ライオンズマンション 24 軒第 3 管理組合	38,000
函館人形劇団モグラ座	30,000
札幌東子ども劇場	30,000
その他	712,000
合 計	860,000

IV. 事 務 報 告

1. 設立年月日 : 昭和 55 年 4 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 10 号

従たる事務所 : 札幌市北区新琴似 8 条 1 丁目 1 番 34 号 2 階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理 事 長	野 崎 清 史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	今 川 道 夫	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理 事	忍 博 次	北海道社会福祉協議会 前副会長理事
理 事	相 馬 宏 哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン 理事長
理 事	前 田 元 照	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長
理 事	菊 地 秀 一	(一社)札幌市私立保育園連盟 会長

(2) 監事

監 事	西 田 史 明	札幌商工会議所 中小企業相談所 所長
監 事	梅 津 太	税理士

[平成 31 年 3 月 31 日現在 計 8 人]

平成 30 年度における理事会は、次のとおり 4 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 30 年 6 月 5 日	【第 22 回理事会】 1 「平成 29 年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2 「平成 29 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3 「平成 30 年度予算の変更」の件 4 「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決
平成 30 年 6 月 20 日	【第 23 回理事会】 1 「理事長及び専務理事の選定」の件 2 「役員の報酬月額等の決定」の件	1 可決 2 可決
平成 30 年 11 月 8 日	【第 24 回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件 2 「その他報告」の件	1 報告 2 報告
平成 31 年 3 月 7 日	【第 25 回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件 2 「2018 年度予算の変更」の件 3 「2019 年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件 4 「その他報告」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 報告

(3) 評議員

評議員	加 藤 喜久子	北海道情報大学 教授
評議員	菊 池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事相談役
評議員	西 田 充 潔	北星学園大学 教授
評議員	濱 口 登代喜	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事
評議員	林 美枝子	日本医療大学 教授
評議員	荒 山 睦 子	札幌市 PTA 協議会 副会長
評議員	秦 直 樹	(社福)札幌市社会福祉協議会 評議員
評議員	箭 原 恭 子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長
評議員	梶 井 祥 子	札幌大谷大学 教授

[平成 31 年 3 月 31 日現在 計 9 人]

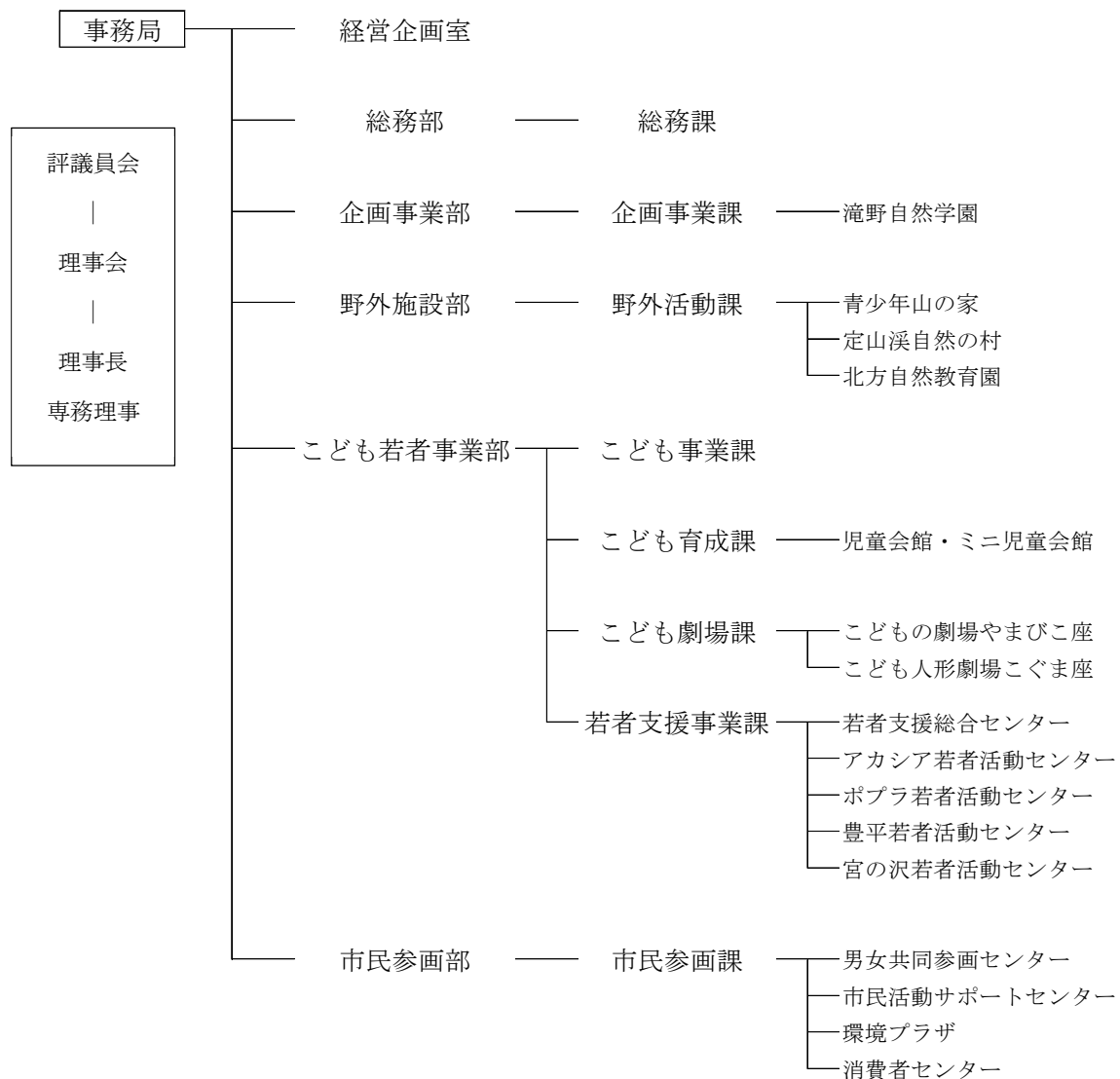
平成 30 年度における評議員会は、次のとおり 1 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 30 年 6 月 20 日	【第 7 回評議員会】 1 「平成 29 年度事業報告及び附属明細書」の件 2 「平成 29 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認」の件 3 「理事の選任」の件 4 「評議員の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決

6. 職員に関する事項（平成 30 年度末現在）

平成 31 年 3 月 31 日現在における事務局組織は次のとおりである。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図



(1) 主要な職員

役職名	氏 名	採用年月日	担 当 職 務
事務局長	生 出 裕 一	平成元年 6 月 19 日	財団運営業務の総括
経営企画室長・総務部長	佐々木 勝 敏	平成 12 年 4 月 1 日	経営企画室業務・総務課業務の統括
企画事業部長	石 井 一 彦	昭和 63 年 4 月 1 日	企画事業課業務の総括
野外施設部長	岡 本 峰 子	昭和 61 年 4 月 1 日	野外活動課業務の総括
こども育成担当部長	五十嵐 健 二	平成元年 4 月 1 日	こども育成課業務の総括
こども育成担当部長	下 川 原 清 貴	昭和 63 年 12 月 14 日	こども育成課業務の総括
若者支援担当部長	佐々木 洋一郎	昭和 56 年 4 月 1 日	若者支援事業課業務の総括
市民参画部長	齊 藤 隆 弘	昭和 60 年 4 月 1 日	市民参画課業務の総括
総務課長	会 田 彰 仁	平成 4 年 2 月 1 日	総務・財務・経理等の総括
人事担当課長	土 井 聖 子	平成 12 年 4 月 1 日	人事・労務等の総括
企画事業課長	蓮 井 潤 子	平成 4 年 2 月 1 日	企画事業課・自主事業の総括
野外活動課長	井 崎 光 男	昭和 59 年 9 月 9 日	青少年山の家の総括
定山溪自然の村担当課長	山 田 憲 克	平成 9 年 7 月 1 日	定山溪自然の村の総括
こども事業課長	志 賀 和 行	平成 4 年 2 月 1 日	児童会館運営に関する総括
管理担当課長	佐々木 初 美	平成 15 年 4 月 1 日	児童会館管理に関する総括
調整担当課長	加 藤 孝	平成 12 年 4 月 1 日	育成課調整に関する総括
児童会館担当課長	齊 藤 美 季	平成 5 年 6 月 1 日	児童会館（豊平・東担当）
児童会館担当課長	齋 藤 隆 仁	昭和 59 年 4 月 1 日	児童会館（厚別・清田・白石担当）
児童会館担当課長	大 場 睦 彦	昭和 62 年 4 月 1 日	児童会館（北・西担当）
児童会館担当課長	笹 川 晃 宏	平成 5 年 4 月 1 日	児童会館（中央・南・手稲担当）
こども劇場課長	矢 吹 英 孝	平成 3 年 4 月 1 日	こども劇場課の総括
若者支援事業課長	松 田 考	平成 13 年 1 月 1 日	若者支援事業の総括
市民参画課長	高 橋 雅 裕	平成 8 年 5 月 1 日	エルプラザ公共 4 施設業務の総括
市民活動担当課長	山 田 弓 人	平成 8 年 12 月 1 日	市民活動に関する調整

(2) 職員数

主任指導員	185 人	サポートスタッフ	58 人
指導員	508 人	再任用職員	14 人
専門指導員	78 人	臨時職員	98 人
職場限定職員	45 人	パートタイム職員	833 人
主任パートスタッフ	157 人		
合 計			1,976 人
内常勤職員数	1,031 人	内非常勤職員数	945 人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：令和元年 5 月 24 日受理）

